

教皇さまの 意向のために祈りましょう

- ①一般：移住・移動者
- ②宣教：人類の光、キリスト
- ③日本：召命の促進



発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人 カトリック長崎大司教区 広報委員会
〒852-8113 長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
TEL095(843)3869 FAX095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤木博英社
〒850-0852 長崎市万屋町 5-13
TEL095(821)2146 FAX095(821)2148

牛は飼い主を知り、
ろばは主人の飼葉桶を
知っている。
イザヤ 1 章 3 節

殉教者による福音のあかし

「信仰によって、殉教者は自分のいのちをささげて、福音の真理をあかししました。福音は彼らを造り変え、迫害する者をゆるすという、愛の最大のたまものを得ることを可能にしました」(「信仰の門」13)。西玄可は自分を処刑せざるを得なかった親友の山田奉行、井上右馬允にねぎらいの言葉をかけた。「この処刑のことで気をもまないように願いたい。自ら選び、望みに望んだキリストの道だから、むしろ感謝したい。」福音のあかしを生きたために、殉教地に集い、殉教者を記念する意味を問うことは、教皇の招きでもある。

家族の霊性を生きたる

黒瀬の辻
殉教祭

列聖25周年
を迎えた聖トマス西六左衛門



門の出身地生月では、188 福者に数えられる両親と長兄の取り次ぎを願い、11月11日クルスの丘公園において黒瀬の辻殉教祭が行われた。聖トマス西は日本人最初のドミニコ会司祭。ミサはドミニコ会ロザリオ管区日本地区長ゴンザロ・ホアン・マヌエル神父(写真)司式で、寒風吹きすさぶ中、平戸地区司祭団と約270人の信徒、修道者、名古屋教区巡礼団と共にささげられた。

1614年の宣教師追放令で、神学生だったトマスはマカオに追放されたが、セルケイラ司教はそれに合わせて、殉教者たちの遺骨や遺物をマニラやマカオに運ばせていた。生月最初の殉教者ガスバ

ル西玄可とウルストライトイ、ヨハネ又市の遺骨もマカオに運ばれていた。トマスは両親、長兄の遺骨と共にマカオへ渡った。司祭になる夢を抱き続けていたトマスは、家族の遺骨を置いてマニラへ渡り司祭に叙階。さらに迫害の最中にある仲間を励ました。追害の最中にある仲間を励ました。追害の最中にある仲間を励ました。追害の最中にある仲間を励ました。

親と成人女性は妻ウルストライトイの名からウルスラ会員。青年は長兄ヨハネ又市と娘マリアの名をとってヨハネマリア青年会員。高校生以下は弟ミゲルからミゲル会員。さらに修道者ガスバルと聖トマス神父の名をとって、生月出身司祭、修道者の家族と召命促進を祈るグループは、ガスバルトマス西会員として集まり活動している。派遣

を受けて3年。山田教会献堂100周年に、マカオから戻った殉教者遺骨の一部が教会堂に安置された。苦しみや弱さの向こう側へお

呼びになる主の思いに従った家族殉教者が、訪れる人々の苦しみと傷を癒やし、大切なものに気付かせてくださるよう祈った。

《直面している課題》

- ①信徒数の減少傾向
過疎化、少子高齢化の急速な進展により人口減少に歯止めが掛からない中、信徒数の減少も加速度的に進んでいます。それに伴い、ここ5年で信徒から頂く教区費は1億5千万円から1億1千万円に減少しています。
- ②司祭の減少と高齢化
現在の長崎教区司祭は98人。そのうち、引退司祭7人、スルピス会員4人、教区外派遣司祭8人となっています。現役司祭の年齢構成から推測し

- て、10年後には司祭が10数人不足し、引退司祭が倍増すると考えられます。
- ③境界集落の教会維持
高齢化と過疎化はとくに離島・山間部で深刻です。主任司祭が兼任している小

- でいくつかの提案をさせていただきます。
- ①小教区間の互助
- ②教区内統一の維持費の設定
- ③小教区の再編成
- ④司祭間の互助

なります。小教区によっては、資金を教区から借りなければならぬ事態が生じることもあり、事実、顧問会による返済計画の審査の上、いくつかの小教区に無利子で貸し出しています。現在、教区は7つの小教区に計約1億円を貸し出しています。また金額が大き過ぎて教区が貸し出すことができず、金融機関から借り入れて、少なからぬ利息を教区が支払っている例が1件あります。返済は順調になされていますが、現在、貸出残高が増える傾向にあり、教区費収入も減少する中、現状を維持することす

ら困難な状況です。このままでは、教区の資金が枯渇し、小教区が金融機関から借り入れしなくてはならなくなることも想定されます。そうすると、利息の支払いという新たな負担を、信徒に負わせることにもなりかねません。

そこで、小教区の資金を融通し合う制度として、教区顧問会が管理する『小教区互助基金』を設けることとなりました。基金創設の趣旨をご理解いただき、各小教区のご協力をお願い申し上げます。

教区会計 下窪英知

教区会計から見た 長崎教区の将来像

教区が3つあり、人的・経済的に存続が困難な小教区も少なくありません。

今回は、本年度から創設された『小教区互助基金』について説明いたします。

小教区が土地を購入したり、教会堂や司祭館などを改修・新築したりすると

なると、多額の資金が必要と

なります。小教区によ

り、教会堂や司祭館などを改修・新築したりすると

《課題解決に向けて》

その解決に向けて、2012年度の教区評議会総会

と、多額の資金が必要と

なります。小教区によ

り、教会堂や司祭館などを改修・新築したりすると

なると、多額の資金が必要と

なります。小教区によ



信じて生きる喜びを

久賀島・牢屋の窄殉教祭

ミサの説教を担当した岩崎晋吾神父(浦頭小教区は、

た岩崎晋吾神父(浦頭小教区は、

「便利で快適な暮らしとはとどまることを知らない。信仰年で信仰の再発見が叫ばれるのは、見失った信仰の価値があるから。殉教者の声に耳を傾け、彼らのように教えを引き継ぎ、祈り、キリスト者として生きる喜びを見いだそう」と呼びかけ、「殉教者は牢屋の苦しみよりも、信じて生きた喜びを語りたはずだ」と、笑いを誘いながら説いた。

五島巡礼の締めくくりに殉教祭に参加した北海道からの信徒は、「長崎、とくに五島の素朴で熱い信仰が脈々と今に引き継がれている様子に感動した」と話した。また、迫害で生き残った子孫から野濱達也神父(福江小教区助任)が誕生したことを知り、一同あらためて信仰の実りを味わった。

牢屋の窄の殉教 希望から確信へ

その中でも過酷さを極めたのが、久賀島の「牢屋の窄」の責めである。1868年、久賀のキリシタン

私たちは捕らえられ、松ヶ浦の牢屋に入れられた。12畳ほどの場所を2つに分け、男女別々に188人が押し込まれた。その窮屈さは言語に絶し、せり上がって床に足がつかない者もいた。食べ物には朝と晩に小さな芋一切れ。飢えに泣き狂う子ども。用便にも行けず、牢内は悪臭と不潔さを極めた。

入牢して数日後、最初の死者が出た。そのまま牢内に放置された遺体からはウジがわき、13歳のドミニカは、生きながらそのウジに下腹を食い破られて亡くなった。牢屋に入れられていた期間8カ月、亡くなった者39人、出牢直後息を引き取った者3人。それでも信者たちは揺るがなかった。「私はパ

「五島崩れ」のきつかけとなった。

符を集めて焼き捨て、寺や神社と縁を切りたいと代官に申し出た。これが五島のキリシタン検挙事件「五島崩れ」のきつかけとなった。

入牢して数日後、最初の死者が出た。そのまま牢内に放置された遺体からはウジがわき、13歳のドミニカは、生きながらそのウジに下腹を食い破られて亡くなった。牢屋に入れられていた期間8カ月、亡くなった者39人、出牢直後息を引き取った者3人。それでも信者たちは揺るがなかった。「私はパ

「丸尾武雄『神の恩恵を支えられた先祖の旅路』、まるちれす研究会『ガリラヤへ』(参照)

★ほしかげ★

司祭の説教には3つの種類があるという。まずは「天使の説教」。これは10分以内の説教のこと。内容はさておき、10分以内で終わると、参列者は「早く終わってよかった」と天使のようなきれいな心で、家路に就くことができる。20分以内の説教のことを「人間の説教」という。少しイライラしても、耐えられない長さではない。20分を超える説教のことを「悪魔の説教」という。せっかくミサに来たのに、「長すぎる」とフツフツ文句を言っている。罪を犯しながら家に帰るからだ。▲助祭のとき、大神学校の教授から、毎日3分以内で説教するように言われたことがある。ところが、短くしようとすればするほど、準備に膨大な時間がかかる。3分の話のために丸1日かけたこともあった。3つの説教の教訓はその長短ではなく、それだけ真剣に準備しなければならぬということにあるのかもしれない。▲子どものころ、聖体拝領の1時間前には、水と薬以外は食べたり飲んだりしてはいけないと厳しく教えられた。祖父母の時代には、ミサの前晩から、水一滴飲まずに準備していたと聞いている。本番を大事にする人の態度は、その準備に表れる。▲待降節。キリストの誕生を待ち望む私たちの準備も、真剣なものでありたい。▲「4つ目もあってね、30分以上を司教の説教というんだよ。」司祭叙階2年目の春、島本要大司教から聞いた話である。(F・O)



長崎教区司祭
川添
猛

「おいでたバアテルさんですか。わたしは信者ではありませんが大江出身です」と挨拶してくれました。信徒のお医者さんの招待でしたから聞いていたのでしょう。

1885（明治18）年からその生涯を終えるまでの57年間、大江教会の主任司祭だったパリ外国宣教会のガルニエ神父は、聖者としてこの地方で誰でもご存じの有名な人です。そして、親しりと尊敬をこめ「バアテルさん」と呼んだそうです。料亭の支配人も子供のこ

れは殉教するまゝに、「いまから7世代たつと、パードレたちが日日本にもどる」と言い残したのです。「信徒発見」としてよく知られている1865年3月17日の大浦天主堂でのできごとは、230年もの間ひとりの神父もいなかったのに信仰を守りつづけていた潜伏キ



つづけていた
えましよう。

「素早く、この」宣教師たち

ご先祖に心より感謝を・・・


主の平安
株式会社 五島式典社 (斎場) **五島中央会館**
奈留会館
 代表取締役 コゼフ 浦 昭
 24時間営業
 五島市上大津町 1385 番地 1 T E L (0959) 74 - 5551
 F A X (0959) 74 - 5552
 五島市奈留町浦 1899 - 1 T E L (0959) 64 - 3101
 F A X (0959) 64 - 3102

シナピス会創立20周年

シナピス会は今年創立20周年を迎え、フィリピンで支援している奨学生とその保護者たちを訪問して交流を深めて参りました。

去る8月17日から24日までの日程で

高校生1人、大学生1人を含む7人のメンバーで、支援地の首都マニラとネグロス島のバコロド市を訪問しました。マニラは洪水に見舞われた直後でもあり、ミーティングには7人の奨学生が参加できませんでした。バコロド市では、ヘンリエッタ教会の40人、コンセプション教会の147人や善きサマリア人修道会のキンダースクール(幼稚園)での全幼児とその保護者から、歓迎と感謝状をいただいで帰国しました。



開園時、13歳の園児がいたのには驚きました。私たちは現在、直接支援していない場所も、訪比のたびに支援物資を持って訪れます。最初に訪れた種が生長しているのも楽しみですが、何と言つても現地の人々に喜んでもらえるからです。遠く日本から行くことでお互いに刺激を受けるのです。

シナピス会は設立当初、現地のNGOと協力して、食事の摂れない子どもたちへは給食プログラムを、仕事のない親には農業プログラム、母親たちへは縫い物教えるソウイングプログラムなど、善きサマリア人会のシステム

これまでの活動報告を兼ねて、今回12月17日から20日まで佐世保のアルカサSASEBO交流スクエアでパネル展を行います。多くの方々に見ていただきたいと思ひます。これまで協力していただいた会員の皆様にも感謝申し上げます。(会長 山口瑞代)

典礼と信徒の奉仕

中町教会で典礼奉仕者研修会



糸口として中町教会が企画したもの。講演は「キリストが残された記念(ミサ)」と「典礼」の2部構成で進んだ。まず講師はミサについて、「最後の晩さんは神のことば(新しい愛の掟)である」とし、「聖体の秘跡は新しい愛の掟を生きた力であり、ミサとはキリストの救いを記念し、その恵みをもたえ、人々に与え続ける役割を持つている」と話した。

10月21日、中町教会で日本カトリック神学院院長の白浜 満師を講師に迎えて典礼奉仕者研修会「典礼と信徒の奉仕(ミサをささげるために)」が行われ、約180人が参加した。これは、信仰年行事の一環として、信徒の高齢化と若年層の教会離れによる奉仕者の減少、また聖職者の減少に伴いミサ典礼に関わる信徒の役割など問題解決の

「泉」と語り、「人の子は仕えらるるためではなく仕えるために来た」とのみことばの通り、人が互いに奉仕し合うことの大切さを強調した。

講話後の質疑応答では活発に意見や質問が寄せられ、有意義な研修会となった。

上五島地区合同堅信式

上五島地区堅信式が、11月11日午後2時から青方教会で高見三司大司教によって行われ、11小教区から57人の中学生と2人の成人信徒が堅信の秘跡を受けた。説教の中で大司教は、「堅信の秘跡を受けることで、皆さん



の秘跡は弱いわたしたちを聖霊の恵みが強めてくださり、周りの人に証しする力をいただくと学びました。聖霊の恵みに信頼して、これから生きていきます。大司教さまもお体を大切に、聖務に励んでください」と力強く決意を語った。

聖母マリアとともに

聖母の騎士会講演会とミサ

10月27日カトリックセンターにおいて、けがれなき聖母の騎士会(創立者・聖コルベ神父)主催による講演会とミサの集いが行われた。講師はコンベンツアル聖フランシスコ修道会司祭で、けがれなき聖母の騎士会国内総補佐司祭でもある山口雅稔神父。



ばを受け入れ、従った聖母マリアの生き方を通して、信仰の道は幸せの道、喜びの道であることを、カテキズムの内容と照らし合わせながら、分かりやすく丁寧に語っていた。

道会司祭たちによる共同司式で行われ、聖霊の光と聖母の愛に満たされ、温かな雰囲気の中、聖コルベ神父の御絵からは、恐れずに力強く信仰の道を歩んでいくようにと派遣の祝福を受けているようであった。

ロザリオの月を締めくくると、開催された今回の集いには、関東から沖縄までのけがれなき聖母の騎士会会員や求道者の姿もあつた。参加者は信仰年を歩むともしびを手に、それぞれの生活の場へと帰っていった。

短 信

〈教皇庁大使館〉

●上智大学創立100周年記念事業・日本バチカン国交樹立70周年記念事業として、11月10日(土)、ピーター・コドヴォ・アピア・タークソン枢機卿(教皇庁・正義と平和評議会議長)の基調講演や、シンポジウムなどが上智大学で開催された。学校法人上智学院、駐日ローマ教皇庁大使館共催、カトリック中央協議会後援。

〔長崎〕

●11月3日(土) 13時から長崎市下黒崎町にある枯松神社境内で、第13回枯松神社祭が行われ、黒崎教会の大山 繁主任神父がミサを司式した。オラショ奉納や講演なども行われた。

●11月4日(日) 11時からキリシタン洞窟ミサが、悪天候のため現地新上五島町・若松島)に上陸できず、土井ノ浦教会で行われた。参列者は船の上から洞窟とキリスト像を眺め、その後、教会で

がどうつて

▼イエズス会立山修道院お知らせ ●祈りの一日

①12月1日(土) ②12月8日(土) ③12月15日(土) ④12月22日(土) ⑤12月29日(土) ⑥12月31日(日) ⑦12月31日(日) ⑧12月31日(日) ⑨12月31日(日) ⑩12月31日(日) ⑪12月31日(日) ⑫12月31日(日) ⑬12月31日(日) ⑭12月31日(日) ⑮12月31日(日) ⑯12月31日(日) ⑰12月31日(日) ⑱12月31日(日) ⑲12月31日(日) ⑳12月31日(日) ㉑12月31日(日) ㉒12月31日(日) ㉓12月31日(日) ㉔12月31日(日) ㉕12月31日(日) ㉖12月31日(日) ㉗12月31日(日) ㉘12月31日(日) ㉙12月31日(日) ㉚12月31日(日) ㉛12月31日(日) ㉜12月31日(日) ㉝12月31日(日) ㉞12月31日(日) ㉟12月31日(日) ㊱12月31日(日) ㊲12月31日(日) ㊳12月31日(日) ㊴12月31日(日) ㊵12月31日(日) ㊶12月31日(日) ㊷12月31日(日) ㊸12月31日(日) ㊹12月31日(日) ㊺12月31日(日) ㊻12月31日(日) ㊼12月31日(日) ㊽12月31日(日) ㊾12月31日(日) ㊿12月31日(日)

香典返し

長崎カトリック神学院 ●田川正美様(黒崎) ●故ペトロ田川福松様 ●山口峰子様(浦上) ●故ラウレンシオ ●山口哲司様 ●匿名様(稲佐) ●深堀スギノ様(浦上) ●故アグネス ●深堀シノブ様

右の方々から、神学生養成などのために香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

馬込小教区

だいみんこうじ 大明寺教会

最も古い教会の歴史を引き継いで

伊王島町(長崎市)は2つの島からなり、3つの橋でつながっている。沖之島と伊王島である。



伊王島大橋がつながった沖之島にあるのが馬込教会、船着き場側の伊王島にあるのが大明寺教会である。

最初の大明寺教会は、1880年パリ外国宣教会ブレル神父の監督のもと、伊王島の大王大渡伊勢吉によって建てられた。長崎において最も古い教会の一つであったが、1975年老朽化のために解体。愛知県犬山市の博物館「明治村」に移築され、「大明寺聖バ

巡回教会めぐり

鮑ノ浦小教区

子どもたちの信仰教育のために

長崎港の西に位置する福田は1948年、長崎



バス福田線が開通するまでは、船が交通手段という陸の孤島でした。その後、道路の整備と共に著しく発展し、信徒数も増加。80年には信徒数も105世帯、395人となりました。

当時、鮑ノ浦教会で要理教室が開かれていましたが、バスの時間の関係で遅刻する者が多く、子どもたちの信仰教育が大きな課題となっていました。

地区の親たちは自分たちが受け継いだ信仰の大切さを痛感しながら、学校教育と信仰教育との両立に悩んでいた中、太田義一氏、西津信義氏から自宅を要理の場として提供していただき、当時の三村誠一主任神父様、シスターたちが出向かれ教育にあたられました。

このような状況にあつて、地区の信者たちは集会所建設を決意し、小教区においても全体の問題として取り上げられました。85年に鮑ノ浦教会に特別委員会が発足し、小

大槌ベースキャンプ支援報告

教区評議会議長 松尾 勝



大槌ベースを背景に(松尾さんは左から2人目)

9月16日(日)〜21日(金)まで、長崎教区評議会が募集した大槌ベースキャンプ(岩手県上閉伊郡大槌町)ボランティアに、7人で参加しました。私たち男性5人と地元

の漁師12人は、大槌漁港で17日〜20日まで、袋に砂利を入れて重さ約60kgの土のうを作りました。砂利を袋詰めするグループ、袋詰めした土のうをフォークリフトで運



大槌ベースキャンプ周辺の除草作業や、仮設住宅

ぶグループ、運ばれた土のうの上部をロープで固く結ぶグループと、それぞれ担当を決めました。日を増すごとに土のう作りにも慣れ、作業がはかどりました。初日の17日は1000袋、2日目は1400袋、3日目は1700袋、4日目の20日は400袋で、合計4500袋作りしました。この土のうを重石として海中に沈め、ワカメを養殖するそうです。

漁師の人たちとも少しずつ打ち解け、会話も弾むようになりました。年長者の方(73歳)が自分の体験を語ってくださいました。「自分の持ち船も家もすべて津波に持って行かれてしまったが、息子夫婦、孫たちが災難を免れただけでもよかった」と思っている。自分の周りでは、たくさんさんの親戚・知人・友人たちが亡くなっているのだから」

女性ボランティアは、大槌ベースキャンプ周辺の除草作業や、仮設住宅の住民を訪問して避難させている方々の話し相手になる「お茶っこのサロン」のお手伝いをしました。教区評議会では、大槌ベースキャンプでのボランティアを募集しています。所属小教区にお申し込みください。次年の派遣は2013年4月を予定しています。

使うので、宗教色、特に信仰について全面に押し出した原稿は書けず、本質を伝えられないもの、かしらがあった。ただ信徒さんがインタビューを通して、代弁してくれた時はうれしかった」

報道では「伝えるべきものは何か」にこだわりの営業では、「お客様のために何をすべきか」にこだわる。テレビの営業は主に広告主を探し、テレビの広告展開を提案する。15秒や30秒のCMで伝えられないものについて、報道の経験を生かして、ニュースで取り上げられないかなどの切り口を探しています」と話す。

2010年、取材で訪れた江袋教会献堂式の中

世界遺産登録推進CMの制作を手掛ける

NCC社員 吉田 剛さん



今回の世界遺産CMは、キリスト教伝来、迫害、潜伏、信徒発見、神父と信徒が協力し教会をつくっていった歴史、ストーリー性を重視している。「なぜカトリックがずっと続い

CM 世界遺産を目指して

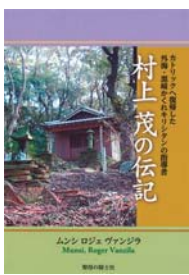
「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録を目指したCMが10月から長崎文化放送(NCC)で始まった。CMは15秒と30秒の2パターン。30秒CMには長崎市内の子どもたちが起用され、親しみやすい語り口調で、教会群の魅力



目指せ! 世界遺産登録

新刊良書

★村上茂の伝記―カトリックへ復帰した外海・黒崎かくれキリシタンの指導者 著ムンシ・ロジェ・ヴァンジン



外海地方の黒崎に残る、かくれキリシタンの指導者だった村上茂さん(2005年死去)の

★クリスマスうたものがたり 文Ⅱ中井俊巳 絵Ⅱ永井泰子

この絵本は、世界中で歌われているクリスマス

みことばにふれて

谷脇誠一郎神父 (長崎カトリック神学院)



カット・古川優花さん (本原教会・小5)

浦上教会の信者だった永井隆は、「亡びぬものを」という著書を残しています。医大生として浦上に住み、カトリックの信仰に触れながら、戦争と原爆を体験していくという物語で、永井隆の自叙伝的な作品です。この作品を読むと、70年、80年前の浦上の様子を知ることができます。

主人公は、カトリック信者である下宿先の家族と一緒に、クリスマスを過ごします。ふだん貧しい生活をしてきた信者たちでしたが、クリスマスの夜、浦上をよそよそしく食べる、きちんとした着物を着たりして、大祝日を祝っていたことが描かれています。

そして、夜12時の夜半のミサ。寄せ鐘が鳴りだすと、人々は一斉に家から出ます。主人公は洗礼を受けていませんでしたが、家族とミサに参加します。教会の中に入りきれないくらいの人々。その人々が一斉に十字架のしるしをし、大きな

教に触れ、洗礼を受けるきっかけになった体験だと思っています。ふだんは、医学という人間の知恵の最前線にしながら、浦上の素朴で貧しい人たちの信仰に、心を動かされていきます。人間の体を研究し

ながら、それがいづれ「亡びるもの」であることを感じ、「亡びないもの」を求め、貧しい中でも明るく、一生懸命生きる浦上の人たちの中に、価値のあるものを見いだしていったのだと思います。

「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである」(ルカ2・10・11)

カトリック誌 『福音宣教』年間定期購読
購読料: 6千円 (年11回/8・9月号は合併号)
申込み: 年間購読料を郵便局から振り込み
郵便口座: 00170-2-84745 オリエンス宗教研究所
問合せ: オリエンス宗教研究所
〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
TEL 03-3322-7601 http://www.oriens.or.jp/
*カトリック書店でも購入可 (1部525円)

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー(株)
代表取締役 ミカエル 溝口 美義
〒858-0926 佐世保市大湊町586
TEL (0956) 47-4380

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
(有) 栄光式典社
代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL (095) 844-4011
24時間営業 FAX (095) 843-9896

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)
貨物保険有り
・一般引越
・小荷物
・遠距離
・学生引越
・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00
水浦運送
シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町12-3
TEL (095) 847-7151
844-1420

墓地・納骨堂 分譲中
高尾・本原・石神・江平・坂本 他
現地ご案内致します

なが さき せき ちよう
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 博明
長崎市梁川町6-17 岩永ビル
☎ (095) 862-2469